

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日	2023年(令和5年)4月24日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校ともに教職員が一丸となって学力課題の改善へ向けた重点取組が進み、子どもたちの意識が変化している。 教職員のやりがいや充実感を基盤に、小中間で学力の伸び調査などにみられる課題を共有し、ICTを活用した授業改善等により基礎学力の定着を期待する。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を持ち、学校生活全般に渡り、主体的にがんばることができ、全体的な規範意識は高い。 授業では協働的な学習に積極的に取組んでいるが、意見の練り合いや合意形成、表現のスキル等が十分でない。また、基礎学力の定着にも課題がある。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>問題解決能力・コミュニケーション力・意思決定力</p> <p>自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもがわくわく感をもって課題を探究し、自分らしく表現する子どもの学びの創造 「あいさつ」の大切さを実感し、家族や友達、教師や地域に向けて実践する力の育成 主体的な学びに係る「ふるさと学習」・SDGS・ICT活用による改善 「家庭学習」における子ども主体の学びの推進のための発達段階に応じた取組の明確化と実践 「体力向上」に向けた子ども主体の取組の推進
--	---	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「地域の宝」となる子どもを育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前に行える自立の力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいと思う気持ちを育てる。
<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成</p>

<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 問題解決力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input checked="" type="checkbox"/> 意思決定力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 自分で、みんなで、取り組む中で、課題に向けて調べたり、他教科と関連付けたり解決方法を考えたりと、主体的に解決の形を考えることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分の夢や目標を語り、他者と進んで関わり、互いのよさを認め合うことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 様々な表現方法で、自分のことや考えを伝えることができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「やってみよう」とする意欲をもち、自分の行動を自分で決定することができる。</p>
--	--

<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○明るく素直で真面目な生活態度で、決められたことは守ろうとする児童が多い。「御野しぐさ」として全校でよい行いをしようとする意欲がある。自分の考えを持つことはできるが、全体へ向けて説明したり表現する力をつけたりする必要がある。 ○「全国学力・学習状況調査」等から基礎学力は徐々に定着しているが、各教科を関連付けて考えたり、活用したりする力に課題が見える。既習の知識や技能を関連づけながら、新たな価値や答えを発見していく学びを楽しむ児童を育てていく必要がある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども主体の学びづくりについて、生活科と総合的な学習の時間を核にした、総合単元的な単元構想を工夫することに取り組んでいる。更に各教科の「見方・考え方」を意識し関連させ、学習意欲を高める「問い」の工夫、児童の思考を促す授業づくりに取り組む必要がある。 ○ICTを適切に効果的に位置付けて、全ての子どもが自分に合った学習方法を選択・決定し、主体的に学ぶ授業づくりに取り組む必要がある。
--

<p>テーマ</p> <p>「わくわく感をもって、課題を探究し、自分らしく表現する児童の学びの創造～児童が進んで考え 選び 表現する 主体的な学びづくり～」</p>	<p>研究</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の「なぜ？」がつながる授業展開や単元構成を工夫することで、わくわく感をもって考えたい、できるようになりたい、わかりたいとチャレンジしたくなる授業づくり ・教科の「見方・考え方」を働かせ、子ども主語・教材主語を意識した教材研究をすすめる ・児童が自分に合った学び方を自分で選択できるよう、個に応じた効果的な支援を行う教師の役割
<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童自らが「問い」を見つけ、他教科と関連付けたり、「なぜ」について探究したりしている授業 ○教科の「見方・考え方」を意識し、児童が主体的に「学びが面白い」と生き生きと学ぶ授業 ○児童が自分に合った学習方法を選択・決定し、主体的に学び表現している授業

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				□指標に 取組状 ◎短期(中 目標の)
							□指標に係る 取組状況	□達成 評価評価	改善方策		
2	知 「子ども主体 の学び」づく りを推進し、 「学びが面白 い」と実感す る児童の育成	★	継 続	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がチャレ ンジできる場 を設定し、自ら 「問い」を見つ け、主体的に探 究する授業の 推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「なぜ？」が つながる授業展開や 単元構成を工夫す る。 ・基礎学力の実態 を把握し、個に応 じた多様な支援の 実施 ・各教科の「見方・ 考え方」を働かせ、 児童が何につまず くのかを予想し、児 童の思考を促す 「問い」と「資料」 を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語科・算数 科・社会科で考える ことが楽しい」児童 80%以上 ・国語科算数科の単 元末テスト60点未 満の児童を20%未 満 ・各教科の「見方・ 考え方」を意識し、 「問い」にこだわる みるやるみせる授業 の実践100% (1単元以上/学 期) 					
				<ul style="list-style-type: none"> ・自己表現力の 向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方法で自 分の考えや思いを 表現する活動や場 の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動のあ らゆる場面で書く・ 話す活動を位置づ け、学期に1回以上 他学年や地域へ表現 活動を発信 					
	徳 自分も他人も 大切にできる心 情の育成	2	継 続	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを 大切にしたい学 級経営を実施、 児童が互いに 認め合える関 係の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・個の実態や状況 に応じた登校方 法・学習活動の実 践し、丁寧な保護 者連携 ・児童会行事等で 異学年と交流する 機会を通して、他 人に感謝や尊敬の 気持ちを育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向児童の 減少(感染症等出席 停止を除く欠席数に よる)と出席率の増 加。 					
	2	継 続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に学び、 地域を大切に した学校づく りの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した 神辺ふるさと学習 を各教科で計画・ 実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「御野の人・も の・ことを大切に したいと思う。」肯 定の評価90%以上 						

2	<p>☐</p> <p>子ども主体の 体力づくりの 推進</p>	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・児童主体で体力向上に取り組む。 ・新体カテストにおいて、県平均値を超えている割合を50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会や委員会、たてわり班活動などで、児童がしたい遊び・運動の実施 ・月に2回程度、異学年で外遊びの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間や外遊びで体を動かすことが好きな児童を90%以上 					
2	<p>小中連携を含む学校における組織マネジメントの向上</p>	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区の課題を明確にし、小中連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携を密にし、課題を共有化・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区推進協議会で課題に即した3部会を年3回以上実施 					
2	<p>教職員が生き生きと働ける職場づくり</p>	<p>継続</p> <p>★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に対する満足感や充実感の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意欲・自分の専門性や強みを生かす目標設定し実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事にやりがいを感じている教職員」を90%以上 					
			<ul style="list-style-type: none"> ・時間と質を意識した業務の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日を確実に実施 ・自己管理システムを実施、超過勤務の縮減 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間外勤務、年間360時間以内の割合を昨年度以上 					